

平成28年度
(平成27年度対象)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

印西市教育委員会

目 次

1	点検評価について	1 頁
	(1) 趣旨	2 頁
	(2) 点検評価の対象	2 頁
	(3) 点検評価の方法	2 頁
	(4) 点検評価の構成	3 頁
2	印西市の教育施策	4 頁
	(1) 教育施策の基調	5 頁
	(2) 主な施策	6 頁
	(3) 教育施策の体系	8 頁
3	点検評価結果	9 頁
	(1) 点検評価結果目次	10 頁
4	評価のまとめ	31 頁
	(1) 評価内訳	32 頁
	(2) 施策別評価	34 頁
	(3) 学識経験者の知見の活用	34 頁

1 点検評価について

(1) 趣旨

市教育委員会では、平成17年度から教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、この基調による目標のもと、事業の実施に努めているところですが、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、「教育委員会は、毎年その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表すること」となりました。昨年度は、平成26年度「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成27年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成27年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民のみなさまからご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

(2) 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成27年度版印西市の教育施策（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容について、点検を行い、印西市教育委員会としての自己評価を報告書としてまとめました。

(3) 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な事業」毎に、平成27年度に実施した実施内容及び実績を明らかにするとともに、それに基づいた施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとします。なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、学校教育、生涯学習、スポーツ振興それぞれの分野の学識経験者の皆様（元市学校長、元市社会教育指導員、市体育協会役員）に、御意見をいただきました。

(点検評価の流れ)

- 事業点検…主な事業毎の事業内容点検（点検者：担当課長）
↓
- 施策評価…主な事業評価（評価者：教育長、部長。学識経験者知見活用）
↓
- 総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

(4) 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な事業」における「事業内容」を平成27年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、「主な事業」毎に内部評価しています。

表の項目について

○事業……「主な事業」毎に掲げている事業です。

○事業内容（平成27年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、当該年度の事業計画書であり、教育施策中の主な事業における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、平成27年度目標と位置付けています。

○平成27年度実績……平成27年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。

○施策評価……「主な事業」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「S、A、B、C」の四段階評価とし、以下の内容を基準としています。

S 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。

A 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。

B 目標の一部が達成できなかった。

C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

○評価理由……「S、A、B、C」の評価を行った理由を示しています。

○今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参 考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

[昭和31年6月30日法律第162号]

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

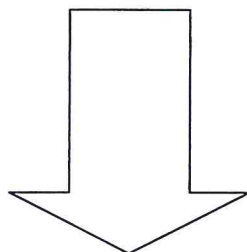
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 印西市の教育施策

(1) 教育施策の基調

健やかな心と体を育む教育



主な政策と施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- ◇健やかな心と体を育む教育の推進
- ◇活力ある学校づくり
- ◇学校・家庭・地域の連携強化

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

- ◇生涯学習活動の支援
- ◇生涯学習推進体制の充実
- ◇青少年の健全育成
- ◇スポーツ環境の整備・充実
- ◇スポーツ推進体制の充実

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

- ◇文化・芸術活動の推進
- ◇文化財の保護・活用
- ◇市史編さん事業の推進

(2) 主な施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

これからの教育には、変化の激しい社会を担う子どもたちに、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3本を柱とする「生きる力」をつけることが求められている。

その中でも本市は、特に健やかな心と体を育む教育を基調とし、道徳教育の充実や豊かな体験活動、情報教育やICT活用の推進、芸術文化体験事業や読書活動の推進、教科体育の充実、運動部活動の推進や小学校駅伝競走大会、食育や生活習慣づくりなどを通して健やかな心と体の育成に向けて取り組んでいく。

さらに、教職員の専門性と指導力の向上を図り、子どもの学ぶ意欲の向上に努め、生涯学習の基礎づくりをめざす。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する〔生涯学習・生涯スポーツ〕

生きがいを持ち、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となっている。さらに、国際化・情報化等の進展に伴う、価値観の多様化と社会の急激な変化に対応するため、情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

こうした市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、多様な生涯学習情報と公民館・図書館等の学習活動の場を提供することにより、学習機会の拡充を図り、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたってさまざまな分野で自ら学ぶことのできる学習環境をつくり、市民の生涯学習活動を推進する。

また、公民館や図書館等の生涯学習・社会教育施設の維持・管理や指導者の確保、高等教育機関等との連携・協力を図り、生涯学習推進体制を充実する。

さらに、親と子の絆を強めて、子どもの生きる力の基礎となる家庭教育を充実させるとともに、子ども達が安全・安心で健やかに成長できるように、地域で行われる青少年健全育成活動を推進し、地域で活動する市民団体を支援する。

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の「こころ」と「からだ」の健全な発展をうながし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいある社会の形成に寄与するもの

である。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となってきた。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そしてライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

このことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充を一層推進する。

Ⅲ．心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

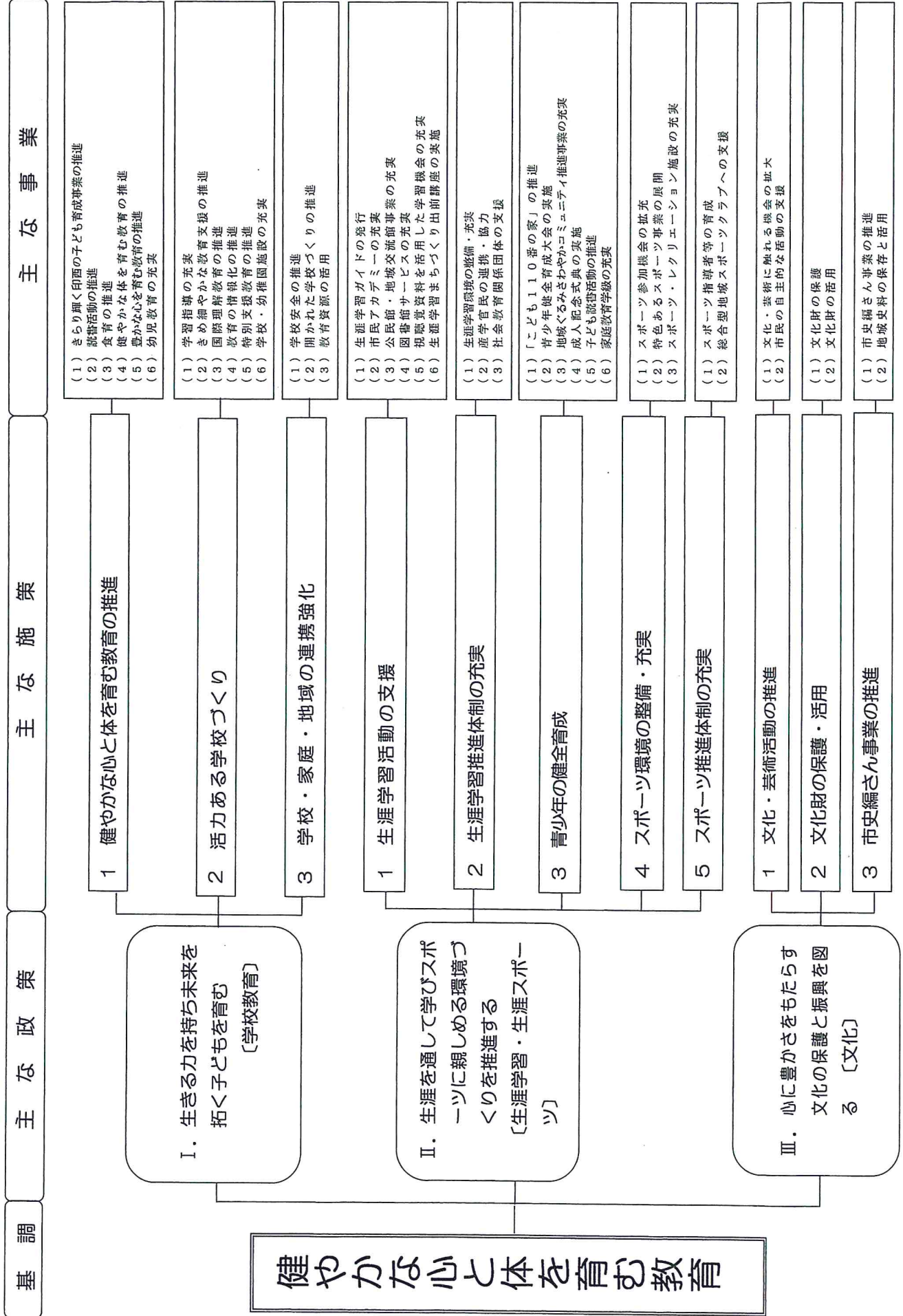
こうした中で、市民一人一人がゆとりある充実した生活をおくるためには、文化に親しみ、自ら文化創造の担い手となることを基本として、魅力に富んだ地域文化の形成が求められている。

また、文化は古くからその地域の自然・歴史・伝統と共存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって生まれ、独自のものを形成してきた。ところが、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承されてきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

このことから、市民の自主的で創造的な文化芸術活動の推進や市民の文化芸術に対する関心を高めるため学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、ゆとりと潤いのある文化芸術活動の盛んなまちづくりを展開する。

さらに、市民の心のよりどころとなる文化遺産を保護し、次の世代に継承するため、積極的に調査研究するとともに、その保存・活用に努め、伝承文化の振興を図る。

(3) 印西市の教育施策の体系



3 点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 健やかな心と体を育む教育の推進

(1) きらり輝く印西の子ども育成事業の推進	11頁
(2) 読書活動の推進	11頁
(3) 食育の推進	12頁
(4) 健やかな体を育む教育の推進	12頁
(5) 豊かな心を育む教育の推進	13頁
(6) 幼児教育の充実	14頁

2 活力ある学校づくり

(1) 学習指導の充実	15頁
(2) きめ細やかな教育支援の推進	17頁
(3) 国際理解教育の推進	17頁
(4) 教育の情報化の推進	17頁
(5) 特別支援教育の推進	18頁
(6) 学校・幼稚園施設の充実	19頁

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 学校安全の推進	19頁
(2) 開かれた学校づくりの推進	20頁
(3) 教育資源の活用	20頁

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 生涯学習活動の支援

(1) 生涯学習ガイドの発行	21頁
(2) 市民アカデミーの充実	21頁
(3) 公民館・地域交流館事業の充実	21頁
(4) 図書館サービスの充実	22頁
(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実	22頁
(6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施	22頁

2 生涯学習推進体制の充実

(1) 生涯学習環境の整備・充実	23頁
(2) 産学官民の連携・協力	23頁
(3) 社会教育関係団体の支援	23頁

3 青少年の健全育成

(1) 「こども110番の家」の推進	24頁
(2) 青少年健全育成大会の実施	24頁
(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	24頁
(4) 成人記念式典の実施	24頁
(5) 子ども読書活動の推進	25頁
(6) 家庭教育学級の充実	25頁

4 スポーツ環境の整備・充実

(1) スポーツ参加機会の拡充	26頁
(2) 特色あるスポーツ事業の展開	26頁
(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実	27頁

5 スポーツ推進体制の充実

(1) スポーツ指導者等の育成	27頁
(2) 総合型地域スポーツクラブへの支援	28頁

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 文化・芸術活動の推進

(1) 芸術・文化に触れる機会の拡大	29頁
(2) 市民の自主的な活動の支援	29頁

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護	29頁
(2) 文化財の活用	29頁

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進	30頁
(2) 地域史料の保存と活用	30頁

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 健やかな心と体を育む教育の推進

(1) きらり輝く印西の子ども育成事業の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①きらり輝く印西の子ども育成	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動への支援 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○ものづくり体験学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動が特に顕著な9校を中心に、すべての学校の教育活動を支援した。 ○小学校21校の参加により実施。男女合わせて68チームが出場した。 ○いには野・平賀・宗像小学校、滝野・六合・牧の原小学校の児童を対象にものづくり体験教室を開催し、講師の匠の技に触れさせることができた。

施策評価	A	
評価理由	特色ある教育活動の支援を行い、小学校駅伝競走大会には全小学校が参加することができた。ものづくり体験学習は、27年度で累計21校が実施を終えた。印西教育の特色を打ち出すことができた。	
今後の課題	学校規模の差等を考慮した大会運営のあり方。	

(2) 読書活動の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①学校図書館の資料の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校間貸し出しの充実 ○図書システムの活用による学校間貸し出しの推進 ○計画的な図書資料の選定と購入 ○蔵書点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当職員を核として、学校図書館司書が補佐しながら充実に努めた。 ○図書システムを活用し、学校間での蔵書を超えた有効利用を計った。（308回） ○文部科学省が示す学校図書館図書標準に基づき、児童生徒への指導に適した蔵書の選定と購入を行った。 ○小学校11校で実施した。
②市立図書館との連携事業の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者会議、学校図書館司書連絡会での情報交換 ○市立図書館からの団体貸し出しの利用促進 ○スクール便貸し出し事業 ○図書館司書研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館担当者の会議を年2回、学校図書館司書の連絡会を年11回、実施した。 ○学校図書館担当者会議において、市立図書館担当者から学校担当者へ、直接、利用方法等の説明を行うとともに、市立図書館から学校施設に対し3,904冊の図書の貸出しを行った。 ○市立図書館からスクール便として、小学校19校、中学校6校に、資料のセット貸し出しを行った。 ○市立図書館司書と学校図書館担当の会議を実施した。
③学校図書館の環境整備と機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○司書の適切な配置 ○学校図書館司書連絡会の定期的な開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小・中学校30校に図書館司書11名を配置した。 ○全中学校を会場として学校図書館司書連絡会を実施し、環境整備と機能の充実に努めた。

施策評価	A	
評価理由	学校図書館システムの活用及び学校図書館司書11名による配置、派遣により、学校図書館環境の充実が図られた。	
今後の課題	学校図書館司書の増員を図ることで小学校配置日数を増加し、読書活動を一層推進すること。	

(3) 食育の推進

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」や食に関する指導の全体計画に基づいた組織的な指導 ○栄養教諭等・養護教諭・学級担任らの連携による食育指導 ○栄養指導教室の開催 (全小学校1・3年生, 希望する小学校2・4・6年生に実施) ○生活習慣病予防教室の開催 (全小学校5年生・全中学校1年生対象) ○家庭・地域と連携した食育の推進 ○ちば食育ボランティア, ちば食育サポート企業の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○「印西市食育ミニマム」に基づいた組織的な指導を実施した。 ○栄養指導教室, 生活習慣病予防教室に関する指導で連携を図りながら実施した。 ○全小学校1年生・3年生を対象とした栄養指導教室を実施した。2, 4, 6年生については希望する小学校を対象に実施した。 ○学校給食センター栄養士が小学校5年生及び中学校1年生を対象に小児生活習慣病予防のための指導を行った。 ○食育通信を月1回発行し, 家庭への啓発を行った。授業実施後, 指導内容がわかる保護者用資料の配付とともに家庭と連携した事後活動を実施した。 ○全小中学校に啓発資料を配付し, 活用を促した。
②学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 ○食物アレルギーへの対策 ○学校給食センター老朽化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市産の食材を45%, 千葉県産を19%使用し, 地産地消を推進した。 ○衛生管理に関する研修会を行った。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し, その再資源化を図った。 ○食物アレルギー調査, 食物成分表を保護者に配付し, 事故防止に努めた。各小中学校でエビベン研修, 心肺蘇生法講習会を実施した。 ○破損, 修繕の必要な個所に対して随時対応した。

施策評価	A
評価理由	食育を教育課程に位置付け, 健康の維持増進を図ることができた。
今後の課題	栄養教室等を行っていない学校や学年への授業支援のあり方。

(4) 健やかな体を育む教育の推進

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①学校体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議, 体育科研修会の開催 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○中学校武道学習における積極的な外部指導者の活用 ○授業や大会等における順天堂大学との連携強化 ○運動に親しむ能力を育成するための授業改善指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を2回(小中学校各1回ずつ), 実技研修会を1回実施した。 ○小学校21校の参加により実施。男女合わせて68チームが出場した。 ○県事業の特別非常勤講師配置事業を活用し, 3名の外部人材を3校に配置し, 活用した。 ○小学校駅伝競走大会にて, 伴走等で3名の協力を得て実施した。 ○各学校からの要請に基づき, 指導主事を派遣し, 体育科(保健体育科)学習の授業改善を図った。
②運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動サポート事業による指導者派遣 ○部活動補助金交付事業による経済的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○22名の部活動サポーターを派遣し, 競技力の向上を図った。 ○各種県大会及び関東大会並びに全国大会の交通費等の経費について支援を行った。
③健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材(血管模型)や, 歯科保健指導教材(位相差顕微鏡・かみかみセンサー)を各学校へ貸し出し, 事業の充実に努めた。 ○北総地区少年センター職員を講師として, 薬物乱用防止教室を実施した。
④学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医, 学校歯科医, 学校薬剤師との連携 ○各専門部会(学校薬剤師, 栄養士, 養護教諭)の活動の支援 ○「印西市の学校保健」(小冊子)と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健理事会を1回実施した。 ○学校薬剤師部会2回, 栄養士部会3回, 養護教諭部会4回実施した。 ○「印西市の学校保健」(小冊子)年1回と学校保健会報を年3回発行した。
⑤健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等)及び就学時健康診断を実施した。

	○健康診断結果の集計と分析	○健康診断結果を「印西市の学校保健」にまとめた。
	○個別指導の充実（治療勧告）	○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
⑥小児生活習慣病の予防	○小児生活習慣病予防検討部会の開催（学校医、養護教諭、栄養教諭等）	○年2回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。
	○小児生活習慣病予防検診の実施（小学校5年生、中学校1・3年生対象）	○小学5年生、中学1年生・3年生を対象に実施し、必要な者には受診勧奨を行った。
	○養護教諭、栄養教諭等による小児生活習慣病予防教室及び事後指導・個別相談の実施	○小学5年生、中学1年生を対象に予防教室を行った。（小学校1時間、中学校2時間）また、必要に応じて個別に事後指導や相談を行った。
⑦口腔衛生事業の推進	○学校歯科保健検討部会の開催（学校歯科医、養護教諭、歯科衛生士等）	○年2回開催し、その結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導等について検討した。
	○学校歯科医、歯科衛生士等による歯科相談・ブラッシング指導の実施	○学校歯科医や歯科衛生士による歯科保健指導を全ての小中学校で実施した。
⑧保健室機能の充実	○保健室の整備	○各学校からの要望に基づき、必要に応じて備品等の整備を行った。
	○健康相談の実施	○養護教諭を対象とした研修を実施した。
⑨学校環境衛生の充実	○環境衛生検査の実施（水質検査、照度検査、空気検査等）	○照度、照明検査、飲料水・プール水質検査、空気環境調査（ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素）、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	A
評価理由	概ね計画通りに事業を行うことができた。
今後の課題	中学校保健体育における武道の外部指導者の派遣体制の充実及び安全管理を徹底すること。

（5）豊かな心を育む教育の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①道徳教育の充実	○道徳教育全体計画の改善と校内推進体制の充実 ○道徳教育授業実践研修会の開催	○各学校の道徳教育推進教師を中心に計画の見直しや指導の実践を図った。 ○教職員の指導力向上のため、年3回（理論研修・実践研修・実践報告会）の研修を設けた。
②人権教育の推進	○人権教育全体計画の改善と心を育てる教育の充実 ○人権教育研修の実施 ○いじめに関するアンケートの定期的な実施 ○家庭・地域や関係機関との連携による人権意識の啓発	○法令等を再確認し、学校での取組について指導した。 ○全ての小中学校において、学校人権教育研修会を実施した。 ○学校の実態に応じて、年2～3回実施した。 ○学校だよりをはじめ、学年・学級だより、ホームページにおいて学校の取組について情報の発信を図った。
③芸術文化体験事業の充実	○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催	○全小中学校が参加し、中学校区ごとに合奏と合唱を演奏・鑑賞した。さらに、中学校吹奏楽部の演奏・鑑賞部門を設け実施した。 ○小学校6年生を対象に、古典芸能である狂言と落語を鑑賞した。
④体験活動の推進	○中学校職場体験学習の実施と小学校職場見学学習の支援 ○奉仕等体験活動の実施 ○自然体験学習の実施 ○みどりの少年団活動の推進	○全中学校2年生、全小学校6年生で実施した。 ○学校や地域の美化活動を中心に実施した。 ○各学校において、児童生徒の実態に応じた自然体験学習を実施した。 ○市内全校が緑化活動に取り組んだ。
⑤郷土愛を育む教育の推進	○各小・中学校に設置している「歴史資料室」内容の充実 ○地域の伝統芸能の体験	○夏季社会科研修会において、そうふけふれあいの里の歴史資料室を見学することを通して、各学校の参考となるようにした。 ○永治小学校、小林小学校、印西中学校、本埜中学校などが神楽等の伝統芸能を体験した。

<ul style="list-style-type: none"> ○社会科副読本の活用による地域の先人の業績の学習 ○地域教材の開発 ○郷土の特色を生かした授業、行事の教育センターホームページを使った発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○大菅喜一、吉植庄一郎・庄亮を取り上げ、各学校で先人の業績の学習に役立てた。 ○社会科副読本に、手賀沼の干拓や戦後の草深の開拓を地域教材として盛り込んだ。 ○教育センターホームページから、他校の実践等の発信に努めた。
---	--

施策評価	A
評価理由	事業を概ね順調に進めることができた。
今後の課題	「命を大切にする」教育を学校だけでなく、全家庭で推進すること。

(6) 幼児教育の充実

事業	事業内容(平成27年度目標)	平成27年度実績
①情報提供と学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育に関する様々な情報の提供 ○園外研修等への積極的な参加 ○組織的・計画的な園内研修の推進 ○保護者会や地域懇談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園、保育園、小・中学校の教諭による就学前ネットワーク部会を開催し、情報の共有・連携を図った。また、保護者会や園だより等を通じ、園児の様子や幼児教育に係る情報を積極的に影響した。 ○各幼稚園に対し、夏季実技研修会や市教育センター主催研修等への参加を奨励し、のべ5回の研修会に複数の職員が参加した。 ○幼児教育充実のために、運動遊び研修会(1回)、特別支援教育研修会(毎月)を実施した。 ○各学期ごとの保護者会や、地域の方との交流の機会(2回)を設け、情報交換等を行った。
②幼稚園・小学校・中学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆめ・仕事びったり体験や職場体験を通しての交流 ○諸行事を通じての交流 ○情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校職場見学や中学校職場体験学習を通して交流した。 ○合唱会や生活科学習などを通して交流した。 ○生徒指導会議、特別支援教育研修会などを通じ、情報交換を行った。
③個に応じた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども発達センターとの連携 ○介助や指導補助のための非常勤職員の配置 ○相談支援ファイルを活用した早期就学相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度の始めと年度途中で連携して巡回指導を行った。就学前、就学後の児童生徒や保護者の情報交換を行った。 ○実態に応じて配置を行った。 ○5月に「就学相談会」を実施した。また、年間を通して、個別の就学相談を実施した。

施策評価	A
評価理由	幼児教育の充実のために、職員の専門性や実践力の向上において一定の効果が見られた。
今後の課題	幼児の年齢に応じた心身の健全な発達を促し、一人一人の個性や可能性を伸ばし、社会の変化に対応できる基礎的な力を培うためにも、更なる教職員の指導力向上に向けた研修等の充実にも努める必要がある。また、今後も各関係機関と連携し、早期就学相談と継続した相談を実施していくこと。

2 活力ある学校づくり

(1) 学習指導の充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①個性や能力を伸ばす教育の推進	○学級経営相談支援の実施	○要請に応じて学校を訪問し、基本的な授業技術の向上や適切な学級事務の進め方等について助言・支援した。
	○印西市漢字検定の実施	○漢字級別認定テスト「印西漢字マスター」を年間3回実施した。また、5名の運営委員により実施手順や問題を改訂した。
	○算数コンテンツの開発	○計算コンテンツ「Inzai Legend of Math」を年間3回実施した。また、5名の運営委員により実施手順や問題を改訂した。
	○社会科ワークテストの作成	○社会科副読本「わたしたちの印西市」に準拠したワークテスト（小4版）の活用を推奨した。
	○生徒指導の機能を重視した「わかる授業」展開の推進	○各学校を年2回訪問し指導・助言するとともに、学校の要請に応じて訪問指導を実施した。
	○基礎学力向上のための対策の推進	○各学校でドリルタイム設定等の工夫をし、計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。
	○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実	○教育センターの研修会で扱った。
	○ICTを活用した授業づくりの推進	○既存の電子黒板やPC、書画カメラやタブレットPC等を利用した授業を実施した。
	○学力向上プロジェクトの実施	○学習指導案を作成しての授業研究を全教職員が行い、指導力の向上を図った。また、指導主事を積極的に派遣した。
	○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用（順天堂大学、聖徳大学、日本医科大学看護専門学校との連携）	○709名のボランティアをのべ10、765回活用し、学習指導の充実と学習環境の整備を図った。
	○教職インターンシップ「あすなる先生」の派遣（秀明大学との連携）	○小中学校に35名派遣し、学校の活性化を図った。
	○少人数学習指導員の配置	○学務課と連携し、学校の実態に応じて適切に配置している。
	○デジタル教材の効果的な活用	○各小中学校にデジタル教科書を配備し、授業での活用を促進した。また、NHKforSCHOOLなどの映像資料を授業に活用した。
	②教職員研修（主任・層別等）の充実	○教頭研修会の開催
○教務主任研修会の開催		○全小中学校の教務主任を対象に校務システムについて年1回の研修会を実施した。
○学年主任等研修会の開催		○全小中学校の学年主任等を対象に、学年主任の在り方について研修会を実施した。
○生徒指導担当者研修会の開催		○全小中学校生徒指導会議を年3回実施。また中学校は併せて中学校生徒指導連絡協議会を5回実施した。
○情報教育研修会の開催		○全小中学校の担当教員等を対象に、教育の情報化等について年1回の研修会を実施した。
○国際理解教育担当者研修会の開催		○全小中学校の担当教員等を対象に年2回の研修会を実施した。
○学校図書館担当者研修会の開催		○全小中学校の担当教員等を対象に年1回の研修会を実施した。
○体育主任研修会の開催		○小学校体育主任を対象に年2回、中学校保健体育科主任を対象に1回、研修会を実施した。
○安全主任研修会の開催		○全小中学校の安全主任を対象に、安全教育の取組及び安全主任の役割について、年1回の研修会を実施した。
○養護教諭研修会の開催		○全小中学校の養護教諭を対象に、校務システムの活用方法について、年1回の研修会を実施した。
○特別支援教育コーディネーター研修会の開催		○全小中学校の特別支援コーディネーターを対象に、役割とその取り組みについて、年1回の研修会を実施した。
○教育相談研修会の開催		○全小中学校から希望があった職員を対象に、不登校対応・指導法等について、8回の教育相談基礎講座を実施した。
○道徳教育授業実践研修会の開催		○全小中学校から1名ずつ推薦された職員を対象に、理論研修・実践研修・実践報告会の順で年3回の研修会を実施した。
○若年層研修会の開催		○全小中学校から希望があった職員を対象に、学級経営と学習指導のポイントについて、年1回の研修会を実施した。
③指導法等の研修の充実	○全教科教材研究等に関する研修会の開催	○教育センターにおいて、6教科と道徳、外国語活動について9講座を開催し、指導力の向上に努めた。（含学習指導法）
	○学習指導法等に関する研修会の開催	○教育センター主催の各研修会で扱った。

	○実技研修会の開催	○教育センター主催研修会で、理科や体育、ICT活用についての実技研修を実施した。
	○ICT活用研修会の開催	○教育センター主催研修会で、教科指導における情報教育やICT活用研修を実施した。
	○ICT実技研修会の開催	○全小中学校から希望があった職員を対象に、学校図書館システムの活用方法について、年1回の実技研修会を実施した。
	○特別支援教育研修会の開催	○介助員を含めた研修を年2回実施した。また、全小中学校から希望があった職員を対象に、通常学級における特別支援教育の研修会を実施した。
	○人権教育研修会の開催	○各小中学校において、学校人権教育研修会を実施し、指導主事が指導に当たった。
	○授業相談支援の実施	○要請に応じて、教育センターや学校で相談支援や授業実践、研修会により助言・支援した。
	○各種出前授業の開催	○要請に応じて、SNSネットリテラシー授業や教科等の授業をのべ16回行った。
④校内研修の支援	○授業研修での指導・助言	○各小中学校に指導主事等を派遣し、指導・助言を行った。
	○評価についての研修の支援	○指導主事を派遣し、思考・判断・表現力の育成を中心に指導・助言を行った。
⑤教育課題調査・研究・開発	○基礎学力調査と活用	○学校の要請による授業研究会等において、評価規準や評価方法についての指導を行った。
	○教育に関する調査・研究・開発	○全国学力・学習状況調査及び千葉県標準学力検査の結果について調査し、考察を加えて各学校に指導法改善の周知を図った。
	○教育研究の奨励・普及	○各教育研修会や学校の研修会で奨励や普及に努めた。
	○教材の研究開発	○教育センターにおいて、漢字と計算のコンテンツやSNS等対応ネットリテラシー教材等を作成・改訂した。
	○教科指導法の指導・支援	○指導主事を派遣し、教科指導に関する指導及び支援を行った。
⑥市教育研究会支援事業	○教職員による自主講座の開催	○特別支援教育担当者が理論や指導法に関する研修を実施した。
	○市教育研究会運営支援	○指導主事の派遣による指導・助言を行った。
	○市教育研究会への指導・助言	○指導主事の派遣による指導・助言を行った。
	○各研究団体の活動支援	○要請に応じ、指導主事を派遣した。

施策評価	A
評価理由	コンテンツ開発等は順調に進んでいるが、その他の事業については概ね例年どおりの実績であるため。
今後の課題	漢字・計算コンテンツの周知と活用、各種研修会の内容の充実。

(2) きめ細やかな教育支援の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①適応指導教室事業の推進	○適応指導教室の充実	○中学生12名小学生5名(全17名)が通室した。年度内に学校復帰を果たした児童生徒は8名であった。
	○連絡会の実施	○月1回保護者を設け、毎回1～3名程度の保護者が参加し、思いを語り合うことができた。
①教育相談の充実	○面接相談・電話相談の充実	○面談件数は105件、電話相談件数94件であった。そのうち「子ども相談室」の利用は22件であった。
	○不登校児童生徒等の相談の充実	○定期的なケース会議を実施したり、訪問相談担当教員と連携を図ったりした。
	○関係機関との連携	○学校だけではなく、市の相談機関との連携を図った。
	○訪問指導の充実	○訪問相談担当教員を活用し、相談の充実を図った。
	○スクールカウンセラー等の活用	○中学校9校に配置されたスクールカウンセラーが、学区の小学校のケースに関わることができた。

施策評価	A
評価理由	適応指導教室の指導の充実や教育相談の体制は整っているが、市内小中学校児童生徒の長欠率は増加しているため。
今後の課題	不登校児童生徒の学校復帰の足がかりになるよう、より一層支援や相談体制を整え、指導員や相談員の資質の向上を図っていく。

(3) 国際理解教育の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①国際理解教育の推進	○外国語指導助手（ALT）の活用	○ALTを各中学校区と2小学校に配置した。
	○日本語指導員の派遣	○日本語を話せない児童生徒のために日本語指導員を派遣した。
	○小学校高学年における外国語活動の充実	○全ての小学校5・6年生における外国語活動を実施した。

施策評価	A
評価理由	ALT11名を活用し、全ての小中学校において国際理解教育の推進を図り、一定の成果を上げることができた。
今後の課題	小学校と中学校における指導の連携を推進する。また国際理解教育（外国語活動・英語科）の更なる充実のためにALTの増員を図るとともに、小学校へ日本人の英語教育コーディネーターを配置する。

(4) 教育の情報化の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①教育関係資料収集・活用・教育広報	○教育資料の収集・活用・提供	○各学校で実施した研究授業の指導案約300本をデータベースに加え、他校でも活用できるようにしている。
	○学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化	○教育委員会からの通達文書はグループウェアを利用して円滑に接受・校内回覧が行われるようにした。
	○教育センターホームページによる教育広報推進	○センターホームページに各学校の様子や取組を日々紹介し、年間30万件余りのアクセスを得た。
	○学校ホームページ及びメール配信システムの広範的機能強化	○小中学校ホームページにて日常的に情報を発信しており、市内小中学校全体で年間約250万のアクセスを得ている。
	○SNS等対応ネットリテラシー教育の充実	○小中学校で児童生徒・保護者を対象としたSNSネットリテラシー出前授業を実施した。
②情報教育及びICT活用の推進	○教科指導用ICT関連環境整備の充実	○耐用年数を超えた小学校PC教室の端末、校務用端末についての入れ替えをすることはできなかった。
	○校務システムの機能充実	○中学校調査書を出力する機能を追加した。また、生徒指導情報の一元管理について周知を図り、機能利用推進を図った。
	○校務システムを活用した学籍・成績・保健等の校務情報化推進	○校務システムを利用して指導要録をはじめとする学籍・成績の情報を一元管理し、安全性確保と業務効率化推進を図った。
	○公簿や文書、教育情報の電子化の推進	○教育委員会からの通達文書のほぼ全てをデジタル化して発信。グループウェアの機能を利用して校内デジタル回覧推進を図った。
	○各システムやサーバー・端末等の適正な運用管理	○適宜保守管理を業者に委託し、トラブルの未然防止と早期対応を図った。
	○情報セキュリティポリシー遵守の徹底	○管理職研修会・異動者対象研修会等で情報セキュリティポリシーについて伝達し、周知を図った。

<p>○教育CIO及びICT支援員の配置、ヘルプデスク設置</p> <p>○情報教育及び教科におけるICT活用に関する研修の実施及び各学校への出前講座実施</p> <p>○学校図書館システムの活用推進</p>	<p>○校務システムヘルプデスクを常設。市内教職員の操作上の質問について迅速に回答することができた。</p> <p>○ICT活用に関する校内研修に指導主事が訪問。また、個別の要請に対しても指導主事が対応し、授業での機器利用推進を図った。</p> <p>○各学校担当者を対象に図書システム研修会を年2回実施した。</p>
--	---

施策評価	A
評価理由	各学校からの情報発信や現存のシステム運用は問題ないが、各学校への教育用端末の導入やICT支援員導入は行われていないため。
今後の課題	「印西市情報化計画」との整合性も含めて、行われるべき機器導入を行っていくこと。

(5) 特別支援教育の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①特別支援体制の充実	○個別指導計画の作成と活用	○実態調査を行い、個別の指導計画を作成して一人ひとりに対応した指導・支援を行った。
	○特別支援学級介助員の配置	○34名を配置した。
	○通常学級指導員の配置	○42名を配置した。
	○校内支援体制の充実	○巡回指導、専門家チームを実施し、各校への支援を図った。
	○家庭、医療、関係機関等との連携	○一人ひとりのニーズに合わせた対応を図るため、必要に応じて指導・支援の方法について連絡調整を図った。
	○適応指導教室との連携	○特別に支援を必要とする児童生徒に対し、支援の方法について連携を図った。
	○研修会の開催	○コーディネーター・通常学級担任・非常勤職員に向け、教育センター主催の研修会を実施した。
②就学指導の推進	○就学指導委員会の開催	○10名の委員により、年2回開催した。
	○早期就学相談の実施	○5月に「就学相談会」を実施した。また、年間を通して、個別の就学相談を実施した。
	○関係課（社会福祉課・健康増進課・保育課・子育て支援課・指導課）担当者会議の実施	○市内の支援体制整備、ネットワーク部会の開催について、年5回開催した。

施策評価	A
評価理由	特別に支援を要する児童生徒の実態に応じ、通常学級指導員や介助員の適切な配置ができた。また、関係機関と連携して、早期就学相談を実施、円滑な支援教育・就学の充実を図れるようになってきた。
今後の課題	昨年度作成したリーフレットの周知と有効な活用を図っていくとともに、継続した就学指導を行うこと。

(6) 学校・幼稚園施設の充実

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①安全な学校・幼稚園施設の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模改修工事の実態 ○非構造部材の点検の実施 ○空調設備工事の実施 ○設備・備品等の整備充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○船穂中学校大規模改修工事出来高実績30% (平成28年度完成予定) ○全ての学校で点検を行うとともに、落下する危険性のある部材の固定を完了した。 ○小学校13校の工事が完了した。(平成28年度に残りの小・中学校の工事を実施する予定) ○各学校・幼稚園の備品要望を基に、各備品の必要性や数量を検討した上で、計画的かつ適正に備品の整備に努めた。
②学区の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ○学区(通学区)の適正化についての検討と調整 ○学校の適正規模・適正配置の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○草深地区の通学区区域変更に係る説明会の開催 ○学校適正配置審議会の開催

施策評価	A
評価理由	学校適正配置審議会から「印西市立小学校及び中学校の適正配置について」答申を受けた。
今後の課題	学校規模により生じる教育指導上及び学校運営上の課題を解消し、より良い教育環境の整え、教育の質の向上を図るため、学校の適正規模・適正配置を推進する必要がある。

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 学校安全の推進

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①安全教育の充実 (1) 安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室の実施(全小・中学校) ○防犯教室の実施(全小・中学校) ○避難訓練の実施(全小・中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前打ち合わせを行い、市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。
②安全管理の充実 (1) 児童生徒の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○防災計画・学校安全マニュアルの見直しと定期的な施設点検の実施に関する指導・助言 ○防犯ブザーの貸与(小学新入生対象) ○メール配信システムの活用(全小・中学校等) ○防災行政無線を活用しての見守り活動の推進(児童の声) ○安全主任等研修会の開催 ○「こども110番の家」の推進 ○台風・雷雨・竜巻等自然災害対応安全指導の充実 ○理科薬品の安全管理の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全主任等研修会で実施した。 ○市内全小学生に貸与した。 ○メール配信システムを継続活用し、各学校で家庭への登録を呼び掛けるようにした。 ○継続的に実施した。 ○印西市の安全教育の取組及び安全主任の役割について、研修会を実施した。 ○PTAと連携して進めている。 ○自然災害対応指導については、気象状況に応じて市内全小中学校で実施した。自然災害対応避難訓練については、8校が実施した。 ○理科薬品管理簿の点検(全校)と薬品庫の点検(9校)を行い、確認事項や改善が必要な点について指導・助言した。
(2) 通学路の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な通学路安全点検の実施と警察・道路管理者等と連携した対応 ○児童・保護者・教師の点検による全小学校区の安全マップの作成及び関係機関への配布 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校の点検結果に基づいて、関係諸機関・市各課との合同点検を実施した。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配付した。
(3) 学校管理下における災害共済給付	<ul style="list-style-type: none"> ○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入の推奨 ○災害給付手続きに関する学校への情報提供及び指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校を通じて、加入を推奨した。(加入率100%) ○手引きを配付するとともに、研修会等で指導を行った。

施策評価	A
評価理由	事業が概ね計画どおり実施できた。
今後の課題	地域との連携を図りながら不審者対応を進めるとともに、家庭の安全教育力の向上を図ること。

(2) 開かれた学校づくりの推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①学校情報公開と地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○教育センターホームページを活用した各学校の取り組みの共有化 ○地域人材の活用（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善 ○学校公開授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内すべての小中学校がホームページを利用して積極的に情報を発信し、全校で年間約250万件のアクセスを得た。 ○教育センターホームページで各学校の様子や取組を紹介し、情報共有の推進を図った。 ○各学校で読み聞かせや高齢者との交流集会、職業人講話等、工夫して活用に努めた。 ○各学校で学校評価を実施し、結果をホームページ上などで公開している。 ○各学校で公開授業や休日を利用した学習成果の発表会等を実施した。
施策評価	A	
評価理由	学校ホームページについては低コストで各学校の情報を公開し、学校経営上プラスの効果をもたらしているため。	
今後の課題	地域人材の活用をより積極的に行うこと。	

(3) 教育資源の活用

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①自然体験学習等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○自然観察会の実施 ○親子体験学習の実施 ○産学官連携科学講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、春の里山観察会18組48名、秋の里山観察会14組34名の親子が参加した。 ○年3回開催し、わら細工体験16組40名、星空観察体験13組30名、科学実験講座20組42名の親子が参加した。 ○夏季休業中に1回開催し、12組24名の親子が参加した。
②キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「ゆめ・仕事びったり体験」の支援（全小学校6年） ○「印西市生き活き体験」の実施（全中学校2年） ○地域の企業、職業人との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場見学・体験等全小学校で実施した。 ○市内147事業所の協力のもと全中学校で実施した。 ○小中学校において、体験活動や講話等を実施した。
③交流事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校・幼稚園の交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各中学校区での体験入学・部活動交流を実施している。幼稚園児を迎えて生活科等で交流会を実施している。
施策評価	A	
評価理由	事業が概ね計画どおり実施できた。	
今後の課題	地域との連携をさらに推進していくこと。	

II. 生涯学習を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

[生涯学習・生涯スポーツ]

1 生涯学習活動の支援

(1) 生涯学習ガイドの発行

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①生涯学習ガイドの発行	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習ガイドの発行 ○冊子内容を市ホームページで提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○300部発行。講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口への配布を行った。 ○市ホームページへの掲載を行った。

施策評価	A	
評価理由	予定の部数を発行し、利用者への便宜を図ることができた。	
今後の課題	年度末からの情報収集や講師確認等の事前準備について出来るだけ期間短縮に努め、可能な限り早く発行し、鮮度の高い情報を利用者に提供できるよう努める。また、より市民に利用してもらえるよう、効果的な配布先の検討も必要。	

(2) 市民アカデミーの充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①市民アカデミーの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市民アカデミーの実施 ○市民アカデミープロジェクトチームによる学習計画の充実・運営 ○公民館・地域交流館などの事業での活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生計25回（延べ1,282人）、2年生計18回と自主勉強会を随時、地域活動課程計10回（延べ86人）を実施（市役所、各公民館、中央駅前地域交流館等） ○生涯学習推進班より2名、各公民館・中央駅前地域交流館よりアカデミー担当者各1名、社会教育指導員1名により学習プログラムやアカデミー生の募集の仕方について、協議を行った。 ○地域活動課程の講座の1つとして地域交流館祭りに参加をして、地域活動について学んだ。

施策評価	A	
評価理由	公民館・地域交流館6館と生涯学習課で事業を共催し、事業担当を中心に取り組むことができた。	
今後の課題	事業プログラム検討や、役割分担などについて明確にしていながら、事業内容の充実に努め、受講者の満足度が高いものになるよう取り組む。	

(3) 公民館・地域交流館事業の充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①公民館・地域交流館主催事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズや社会的課題をとらえた事業の実施 ○子ども対象事業の充実 ○大人対象事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者のためのタブレット講座 1回（16人）を実施（中央公民館）、高齢者のためのスマートフォン講座 1回（15人）を実施（中央公民館）、災害時に生き抜くための講座Ⅱ 1回（26人）を実施（中央公民館）、お菓のはなし 計2回（延43名）を実施（そうふけ公民館）、印西新発見バスツアー 1回（17人）を実施（中央駅前地域交流館） ○ジュニア・コース 10回（延165人）を実施（中央公民館）、夏祭り～大和撫子になろう～ 計1回（15人）、ヤングギャラリー 随時を実施（小林公民館）、なんでもチャレンジヤーズ 計9回（延290人）を実施（そうふけ公民館）、幼児教室『親子であそぼう』 計2回（延べ538人）を実施（印旛公民館）、カヌーに挑戦!! 計2回（延べ32人）を実施（印旛公民館）、夏休み工芸教室 計2回（延べ40人）を実施（印旛公民館）、人形劇を楽しもう 計2回（延べ85人）を実施（印旛公民館）、どきどき冒険隊 計8回（延94人）を実施（本埜公民館）、子ども文化教室（生花、茶道、和太鼓） 計21回（延359人）を実施（本埜公民館）、わくわくスポーツ教室 計6回（延141人）を実施（本埜公民館）、わくわく探検隊 計10回（延216人）を実施（中央駅前地域交流館） ○地域史講座 3回（延110人）を実施（中央公民館）、小林カレッジ 計7回（延112人）を実施（小林公民館）、クリスマスケーキを作ろう 計1回（12人）を実施（小林公民館）、味わい工房 計2回（28人）を実施（小林公民館）、紫芳の宇手紙年賀状講座 1回（10名）ふれあい文化館寄席 1回（37名）を実施（そうふけ公民館）、絵手紙を描こう 計3回（延べ33人）を実施（印旛公民館）、ワイヤークラフト教室 1回（7人）を実施（印旛公民館）、みんなのいけばな教室 1回（18人）を実施（印旛公民館）、男の料理教室 計4回（延28人）を実施（本埜公民館）、はつらつクラブ 計9回（延214人）を実施（中央駅前地域交流館）、季節の料理講座 計3回（延62人）を実施（中央駅前地域交流館）、地域デビュー応援フェア 1回（130人）を実施（中央駅前地域交流館）

	○団体や行政等との共催事業の充実	○青少年おもてなしカレッジ 3回(延18人)を実施(中央公民館), 読み聞かせボランティア養成講座 計3回(延57人)を実施(中央公民館), 家庭教育シアターフォーラム 計17回(262人)を実施(中央公民館), 小林かるた大会 1回(90人)を実施(小林公民館), 科学あそび 1回(16名)を実施(小林公民館), ふれあい大会 1回(14人)を実施(そうふけ公民館), 科学あそび 1回(16人)を実施(そうふけ公民館), ふれぶん出前講座 1回(13人)を実施(そうふけ公民館), ふれあいカラOK! 計2回(62人)を実施(そうふけ公民館), 親子野外教室 1回(176人)を実施(印旛公民館), ふるさと再発見 計4回(延82人)を実施(本埜公民館), 初心者向けパソコン講座 計13回(246人)を実施(中央駅前地域交流館), 科学あそび 1回(29人)を実施(中央駅前地域交流館)
--	------------------	---

施策評価	B
評価理由	事業計画に沿った事業を実施し, 概ね目標を達成することが出来た。参加者人数について, 目標人数を達成できない事業があった。
今後の課題	事業の内容や開催日時, 参加しやすい環境づくりを行い, 市民ニーズ及び社会的課題を取り入れた事業を積極的に実施し, 集客力を高めて行くものとする。

(4) 図書館サービスの充実

事業	事業内容(平成27年度目標)	平成27年度実績
①図書館サービスの充実	○図書・視聴覚資料などの貸出	○市内図書館6館において, 延べ249, 608人の利用者に対し, 831, 620点の図書館資料貸出を行った。
	○レファレンスサービス・事業・資料の充実	○市内図書館6館において, 窓口・電話でのレファレンスを21, 444件受け付けた。

施策評価	B
評価理由	多くの利用者に図書館を活用していただくことができたが, 前年度に比べて貸出点数が減少した。
今後の課題	利用者の要望に応えられるよう資料収集に努めるとともに, 図書館サービスについての広報活動を積極的に行っていく。

(5) 視聴覚資料を活用した学習機会の充実

事業	事業内容(平成27年度目標)	平成27年度実績
①視聴覚資料を活用した学習機会の充実	○視聴覚ライブラリー事業の実施	○視聴覚ライブラリー事業として, 視聴覚教材資料を活用した映画会や家庭教育シアターフォーラムを実施した。 ・ぶち・シアター 計3回(78人) ・映画会 計2回(421人) ・家庭教育シアターフォーラム 計6回(105人) ・シアターフォーラム出前講座 計10回(157人)
	○視聴覚資料の貸出	○機材教材の貸出(常時)

施策評価	A
評価理由	事業は全て実施でき, シアターフォーラムは出前講座を含め参加者を増やすことができた。
今後の課題	視聴覚資料の貸出については, 視聴覚ライブラリーのあり方を含めた検討が必要がある。

(6) 生涯学習まちづくり出前講座の実施

事業	事業内容(平成27年度目標)	平成27年度実績
①生涯学習まちづくり出前講座の実施	○学習機会を増やし, 市民参画のきっかけとなる生涯学習まちづくり出前講座の実施	○市ホームページの他, 町内会, 自治会等を通じた回覧により, 出前講座の周知に努めた。92件 2, 134名が受講した。

施策評価	A
評価理由	平成26年度に大きく増加した利用件数と利用人数が, さらに増加し, 年々出前講座の認知度は高まり利用団体が増加している。
今後の課題	利用頻度の高い内容等を分析し, 市民ニーズの把握に努めるとともに, 関係課を含め出前講座メニューの見直しを進める。また, 講座数自体は減少傾向にあるため, 関係課に市民ニーズに沿った講座の新設について協力を求める。

2 生涯学習推進体制の充実

(1) 生涯学習環境の整備・充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①生涯学習環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館・地域交流館や図書館の適正な維持・改修 ○生涯学習機能の充実 ○社会教育指導員の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○各公民館の施設老朽化部分の改修を行った。 ○各公民館・交流館で、様々なジャンルの主催事業を展開した。また、各図書館において、幼児・小学生を対象におはなし会や図書館探検隊、図書館クイズ、科学あそび、クリスマス会、一般向け講座等各種事業を実施した。 ○生涯学習課に1名を配置し、施策、事業の推進に努めた。
施策評価	A	
評価理由	概ね計画通り実施できた。	
今後の課題	施設の老朽化が進んでいるため、計画的に改修を行う必要がある。	

(2) 産学官民の連携・協力

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①産学官民の連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○大学などの高等教育機関や企業などの連携協力 ○市民・市民団体との連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○○順天堂大学公開講座（市・順天堂大学・酒々井町共催）を実施。内容はコーデイネーション運動教室、体操教室、陸上教室、サッカー教室で、11月8日、15日、22日、29日の日曜日（全4回）で、市から39名の親子が参加した。 ○市民アカデミーの講師として、NPO法人を含む5市民団体を活用し、講座の充実を図った。
施策評価	A	
評価理由	順天堂大学公開講座は、参加者のアンケートでは好評であった。	
今後の課題	順天堂大学公開講座では、酒々井町および順天堂大学とともに協議し、引き続き参加者の満足が得られる事業運営・内容を継続する必要がある。市民アカデミーでは、講座内容に合致する市民団体があれば更に活用を検討する。	

(3) 社会教育関係団体の支援

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①社会教育関係団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育関係団体の支援 ○ボランティアの育成や地域で活動する個人・団体のネットワーク化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金による活動支援、事業後援等により活動を側面から支援した。（後援：20事業） ○公民館と図書館の共催で「読み聞かせボランティア養成講座」及び講演会を実施した。（全3回、1回につき20名程度が参加）市民アカデミー地域活動課程で、地域活動に取り組む人材の育成を図るべく、実際の地域活動の運営にボランティアで参加する講座を設けた。
施策評価	A	
評価理由	社会教育団体への支援、市民アカデミーの地域活動課程の開講など、概ね計画通り実施できた。	
今後の課題	地域活動課程修了者をどのようにして地域活動に参加させていけるかが検討課題。	

3 青少年の健全育成

(1) 「子ども110番の家」の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①「子ども110番の家」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども110番運営委員会などの支援 ○子ども110番ステッカー・看板の提供 ○子ども110番の家災害補償保険の加入 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども110番運営委員会を6月に開催し、事業趣旨等の説明により協力依頼や事業の周知を図った。 ○新規の協力申し込みや、破損等による交換などに対応した。協力家庭数及び事業所数の調査を行った。（1,497件） ○協力家庭及び事業所等の不測の事態に備え、保険に加入した。

施策評価	A	
評価理由	協力家庭、事業所の確認作業を行うとともに、看板の破損等の交換にも随時対応することで、実効的な効果を高めるよう努めた。協力家庭数は目標値の1,580件に比較し94.7%の達成率であった。	
今後の課題	協力家庭数及び事業所等の実態把握のため、定期的な調査を検討する。また、周知・協力依頼についても見直しを検討し、子ども110番の事業趣旨を、より浸透させ協力家庭数増加に向け取り組む必要がある。	

(2) 青少年健全育成大会の実施

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①青少年健全育成大会の実施	○親子で参加し、考える機会となる青少年健全育成大会の実施	○”社会を明るくする運動”とともに、7月4日（土）に開催。 ”社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰者の朗読、小学校・中学校、印西ゆめ太鼓による舞台発表を行った。参加者500名

施策評価	A	
評価理由	概ね計画とおり実施できた。	
今後の課題	健全育成大会側の内容となるが、舞台発表関係者が近年固定化しつつあり、発想の転換や地域で活動している団体等の掘り起こしを検討する。	

(3) 地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○中学校区ごとに学校や地域で活動する団体が協力し、コミュニティづくりと生活環境の整備を図る地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	○6中学校区（船穂中、木刈中、小林中、西の原中、滝野中、本基中）で事業に取り組み、安全パトロール、声かけ運動、スポーツ活動、バザー等の様々な事業を地域の団体が連携協力し学校とともに活動した。

施策評価	A	
評価理由	推進委員会全体会：平成28年2月27日（土）本基公民館にて実施。各実施中学校区からの活動報告・状況報告・意見交換を行い、情報の共有化と事業についての理解を深めるなど、概ね計画とおり実施できた。	
今後の課題	組織への登録は多数あるが、高齢化してきている状況下で、地域活動の中心になる人をいかに作り活かすか。	

(4) 成人記念式典の実施

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①成人記念式典の実施	○新成人運営スタッフの企画・運営による成人記念式典の実施	○29名の運営スタッフにより、2回の会議を行い、企画・準備にあたり、式典当日の運営を行った。

施策評価	A	
評価理由	対象者1,207人に対して、出席者700人であり、概ね予定どおりであった。新成人が運営スタッフとして取り組んだことにより、「自分たちの成人式を自分たちで挙げる」という気持ちを感じられる成人式を行うことができた。	
今後の課題	スタッフ人員の十分な確保が課題である。他には、迷惑行為を働く新成人等への対応をどのように行い、円滑な進行ができるかを警備面も含め、印西警察署等の関係機関との協議が必要である。	

(5) 子ども読書活動の推進

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①子ども読書活動の推進	<p>○図書館での読み聞かせ等の実施</p> <p>○学校での読書活動の推進</p>	<p>○通年で行うおはなし会に1,650名（全館）、夏のおはなし会に250名（大森、印旛、本埜）、ぬいぐるみといっしょのおはなし会に30名（本埜）、クリスマス会に293名（大森、小林、小倉台、本埜）、おはなし会スペシャルに47名（そうふけ）の参加者があった。</p> <p>○家庭教育学級で図書館司書・学校図書館司書による読み聞かせの指導のほか、ホームページなどを活用した広報・啓発を行った。</p>

施策評価	A
評価理由	図書館のおはなし会等の催しに多くの幼児や小学生、またその保護者の参加があった。学校での読書活動の推進については、家庭教育学級における読み聞かせの指導や、広報・啓発など概ね計画通りに実施できた。
今後の課題	図書館のおはなし会等の催しに、より多くの参加者が集まるよう、内容に工夫をするのと同時に積極的な広報活動を行う。

(6) 家庭教育学級の充実

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①家庭教育学級の充実	<p>○各公立幼稚園・小中学校での家庭教育学級開設</p> <p>○家庭教育学級主事会議の開催</p> <p>○家庭教育学級運営委員研修会の開催</p> <p>○家庭教育指導員の配置</p>	<p>○必修32学級、学年19学級、計51学級開設。参加延べ人数3,572名の方が学級生として学んだ。</p> <p>○幼稚園長・小中学校教頭に、家庭教育学級主事を委嘱、指導・助言にあたってもらった。4月16日と2月3日の2回主事会議を開催した。</p> <p>○各学級代表者を対象に、5月1日と2月4日の2回研修会を実施した。</p> <p>○家庭教育指導員1名を設置し、指導助言にあたった。</p>

施策評価	A
評価理由	参加者、修了生を含め、学級活動への参加や、主事会議、運営委員研修会も概ね計画通りに実施することができた。各学級で実施した講座内容について、検証、精査が必要と思われる。
今後の課題	少子化の影響もあり、1学年の入学者が極めて少ない学校がある一方、地域によっては入居者の増から100名を超える学校があるなど、地域性による学校規模の格差などの課題を含め、内容面で実効性のある家庭教育の学びとはどのようなものが良いか検討していく必要がある。

4 スポーツ環境の整備・充実

(1) スポーツ参加機会の拡充

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①スポーツ情報システムの充実	○公共施設予約システムの有効活用	○公共施設予約システム 登録者数3,174組（251組の増）
	○スポーツ情報の集約と多様な情報の提供	○市ホームページ、体育協会ホームページ、広報誌へ各種行事等を掲載し、情報提供を行った。また、体育協会の機関だよりの発行を支援した。（年2回）
②市民参加型スポーツの普及・推進	○市民ニーズに対応した各種スポーツ教室の支援	○全9種目のスポーツ教室の開催及び支援を行った。
	○高齢者のスポーツ活動の支援	○指導者派遣事業や、スポーツ備品等の整備及び貸出しを実施した。
③スポーツによる健康づくりの推進	○ニュースポーツ教室・大会の開催及び支援	○スポーツ推進委員による、ニュースポーツ教室（9回）及びニュースポーツ祭（2回）を開催した。
④市民ぐるみのスポーツイベントの推進	○スポーツ医学セミナーの開催	○肩こり・肩痛の予防改善をテーマにセミナーを実施した。
	○イベントの開催や各種スポーツ大会・教室の支援	○スポーツフェス（体育の日行事）や実行委員会主催によるラグビーまつり、六軒相撲大会、室内棒高跳を開催した。
⑤スポーツイベントの開催・誘致	○大規模なイベントの誘致	○クライミング日本選手権兼ユース選手権大会及び関東大学女子駅伝を開催した。

施策評価	A
評価理由	スポーツフェスの開催や、クライミング教室及びリフレッシュ教室（ソフトエアロビクス・リズム体操・ヨガ）を実施し、スポーツ機会の増加を図ることができた。
今後の課題	今後も市民のスポーツ機会の充実を図る。

(2) 特色あるスポーツ事業の展開

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①クライミングの普及・推進	○団体の育成と施設の整備検討	○市主催事業の講師として、一部を市のフリークライミング協会が担当した。
②パークゴルフの普及・推進	○団体の育成と利用推進	○パークゴルフ場を整備・運営するとともに、パークゴルフ教室を開催した。

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	今後も団体の育成や、施設の整備を継続的に行っていく。

(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①利用者の視点に立った施設運営	○スポーツ施設の管理・運営 ・総合体育館 ・陸上競技場 ・野球場 (7ヶ所) ・テニスコート (23面) ・弓道場 (2か所) ・多目的運動広場 (2か所) ・パークゴルフ場 ・多目的球技場	○各施設の利用状況 139,586人 17,066人 140,568人 72,935人 2,593人 24,944人 11,782人 14,060人
②学校体育施設利用の推進	○学校体育施設の利活用の推進	○市内小中学校30校を一般開放し、180団体・4300人が利用している。 (稼働率 小学校89% 中学校92%)
③学校プール開放	○夏季休業中の学校プールの開放	○委託による開放校 8小学校 利用者数 7,591人 地域による開放校 3小学校 利用者数 1,151人
④スポーツ施設利用の多様化への対応	○民間施設の有効活用 ・東京電機大学平岡グラウンド ・六軒河川敷広場	○各施設の利用状況 7,118人 3,350人

施策評価	A
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	一部の施設においては、大会規模により駐車場が不足している。

5 スポーツ推進体制の充実

(1) スポーツ指導者等の育成

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①スポーツ指導者の育成	○スポーツ推進委員活動の促進 ○スポーツ少年団指導者の拡充と資質向上 ○生涯スポーツ等指導者の育成	○スポーツイベントの企画・立案を行った。 (委員数30名 平均出勤日数16日) ○県スポーツ少年団認定養成講習会に参加した。 ○県・郡主催のニュースポーツ研修会等に参加した。
②スポーツリーダーバンクの構築	○スポーツリーダーバンク登録者の活用	○リーダーバンク登録者を取りまとめ、団体等からの要請に応じる体制を整えた。
③スポーツボランティアの育成	○スポーツボランティア活動の促進	○各種スポーツイベントを、ボランティアスタッフと連携し運営した。
④スポーツ団体等の活動支援	○体育協会への支援と連携 ○スポーツ少年団への支援と連携	○体育協会に補助金を交付し、運営や市民大会等の開催を支援した。 ○スポーツ少年団に補助金を交付し、市交流大会の実施や各大会の開催を支援した。
⑤競技力向上の推進	○市民スポーツ大会の開催 ○郡市民体育大会・県民体育大会への選手派遣 ○トップレベル選手との交流機会の提供	○体育協会が中心となり、19競技48大会の開催を支援した。 ○郡市民体育大会において、313人を派遣し、17競技25種目、全競技に参加した。(総合2位) 千葉県民体育大会においては、21競技109名を派遣した。 ○ラグビーまつり、関東大学女子駅伝、アスリート教室及び室内棒高跳の開催により、トップレベルの選手との交流機会を提供した。

施策評価	A
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	各団体ともに充実した活動を行っており、継続的な支援が必要である。

(2) 総合型地域スポーツクラブへの支援

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの設立支援 ○総合型地域スポーツクラブの充実 ○市民への啓発活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規設立に向けて、活動拠点となる施設を検討した。 ○スポーツ備品等の貸出し、活動場所の確保による支援を行った。 ○総合型地域スポーツクラブの啓発パンフレットを配布した。
施策評価	C	
評価理由	新規設立に向け、活動拠点となる施設の検討にとどまった。	
今後の課題	活動拠点となる学校施設が飽和状態であり、また民間の参入など市内に多数のスポーツクラブがある中、改めて総合型地域スポーツクラブの必要性のあり方を見直す必要がある。	

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る[文化]

1 文化・芸術活動の推進

(1) 文化・芸術に触れる機会の拡大

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①文化・芸術事業の充実	○文化ホール主催事業等の実施	○鑑賞型9事業、参加型2事業、地域文化振興型1事業の計12事業を実施した。そのうち、有料公演は鑑賞型8事業と参加型2事業の計10事業であり、チケット平均売上率は66%であった。
施策評価	B	
評価理由	計画した12事業の全てを実施できたものの、各事業によりチケットの売上率は様々であり、鑑賞型有料公演で目標とした80%の売り上げを達成できたものは、10事業のうち3事業に留まった。事業の実施状況とチケットの売上を合わせた事業全体として捉えると、91%の達成率となる。	
今後の課題	公演内容によりチケット売上率の差が非常に大きい。文化・芸術の発信拠点となる文化ホールでは様々なジャンルを提供する事を考えており、集客の見込める事業のみではない。宣伝方法を考えより多くの人に提供していきたい。	

(2) 市民の自主的な活動の支援

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①芸術・文化活動の支援	○市民文化祭の実施 ○芸術文化団体活動への支援 ○芸術文化情報の提供 ○文化・芸術振興計画策定に向けた検討の実施	○第20回市民文化祭を実施した。展示部門・催し部門はイオンモール千葉ニュータウンで実施し多くの来場者があった。発表部門（文化ホール）大会部門（中央公民館、総合福祉センター）で開催した。期間：10月31日～11月22日。 ○共催や後援など、活動・発表の場のサポート、事業実施内容の情報提供を行った。 ○公民館、文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、関係団体への資料提供を行った。 ○要綱を制定し、策定方針及び検討組織に関して必要な事項について定めた。
②地域文化活動の支援	○市民の地域文化活動への支援	○木下まち育て塾の企画提案による印西市木下地区歴史講座事業を協働事業として実施した。また、印西ふるさと案内人協会や印西地域史研究会の歴史講座事業を後援するなどの活動支援を行った。
施策評価	A	
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。	
今後の課題	引き続き文化芸術の振興を図ると共に、計画策定に向け調査・検討を重ねていく。	

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

事業	事業内容（平成27年度目標）	平成27年度実績
①指定文化財保護事業	○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発	○文化財所有者に対する保存・管理における指導・助言、防災設備等の保存管理経費に伴う補助金の交付等の支援を行ったほか、木下貝層や泉新田大木戸野馬掘、道作古墳群の環境保全に努めた。 ○指定無形民俗文化財の保存会や各伝承者に対し、保存・継承に関する指導・助言を行ったほか、保存・継承活動に対し補助金を交付し、支援を行った。
②文化財基礎調査事業	○仏像調査・石造物調査の実施 ○無形民俗文化財記録保存調査	○「印西市の指定文化財」「木下貝層」などのパンフレットを配布したほか、泉新田大木戸野馬掘遺跡や道作古墳群の現地説明などを実施し、指定文化財の周知等を図り普及啓発に努めた。 ○旧印旛地域において仏像調査を、旧本埜地域において石造物調査を実施した。 ○県指定無形民俗文化財「鳥見神社の神楽」について、映像記録作成を行った。
③埋蔵文化財の保護事業	○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 ○道作古墳群整備事業の推進	○当該遺跡が無く未実施。 ○発掘調査の実施により、開発行為から埋蔵文化財を保護した。 ○整備事業が完了し、公開を行った。
施策評価	A	
評価理由	各事業において、概ね順調に実施できた。	
今後の課題	道作古墳群をはじめとした、史跡等の整備・管理につとめ、その活用について引き続き具体的に取り組んでいく必要がある。また、文化財保護と活用に向けた各種基礎調査を継続して実施し、成果の公表にむけた準備が課題となる。	

(2) 文化財の活用

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①文化財の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○道作古墳群、泉新田大木戸野馬掘遺跡の現地説明会および民具資料の出前講座を実施した。 ○県・市指定の無形民俗文化財6件について、公開事業を実施した。実施日(①4月19日、②5月3日、③8月24日、④9月23日、⑤10月17日、⑥10月18日) ○市民に対し出土品の展示、説明を行った。木下交流の杜歴史資料センターの展示室において、出土品の展示を実施した。
②印旛歴史民俗資料館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市域の考古、歴史、民族等の資料の収集・保管・調査・研究及び成果の公表 ○常設展示及び企画展示の実施 ○講座及び体験型事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区ごとの民俗行事の取材・資料の寄贈等、資料館としての情報を収集できた。 ○常設展示 開館日数293日 来館者数1,032人 企画展示「印旛沼・手賀沼の漁・猟」会期29日間 入場者数180人 ○講座「本佐倉城と印西市の中世城館」参加者19人「ミニチュア土器づくり」参加者16人「勾玉づくり」参加者21人「しめ縄づくり」18人

施策評価	A
評価理由	資料館として収蔵資料の収集、活用を図ることができた。
今後の課題	収蔵資料のデータの公開、活用方法を検討する必要がある。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市史刊行に向けた資料収集・調査等の実施 ○市史講座等の実施 ○市史研究誌及び歴史ガイドブックの刊行 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料収集(近代新聞資料の複写、地域情報紙、広告資料)及び史料調査(学校資料所在調査他3件)を実施した。その他、市史編さん専門委員 編集会議(2回)、同 専門部会(41回)を開催した。 ○市史編さん講演会「出土文字から古代の「印西」を語る」 実施日：平成28年1月23日(土) 実施場所：ふれあいセンター印旛 講師：平川 南 氏 参加者：50人 その他：刊行物販売 ○「印西の歴史」第9号、歴史ガイドブック「新・印西名所図会」を刊行 ○257冊を有償頒布した。有償頒布場所：市役所生涯学習課、資料整理作業所、各公民館、中央駅前地域交流館、印旛歴史民俗資料館

施策評価	A
評価理由	目標とした事業は概ね実施できた。
今後の課題	市史編さん事業の市民への広報を通じて周知・理解を図り、事業への協力を促進する。

(2) 地域史料の保存と活用

事業	事業内容 (平成27年度目標)	平成27年度実績
①地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域史料の調査及び収集 ○地域史料の整理及び保存活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内外所在の地域史料を調査(市内3件、市外1件)。史料の寄贈4件 ○保管資料の整理を進めた。また、保管資料の利用(閲覧、掲載、貸出、撮影、複写等)6件があった。
②歴史公文書の収集、整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史公文書の移管 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度引継 文書保存箱83箱 ・保管総数1,609箱以上 ・閲覧5件

施策評価	A
評価理由	目標とした事業は概ね実施できた。
今後の課題	歴史資料センターへの移転を実施し史料保存の環境整備に努めるとともに、その有効な活用について調査研究を進める。

4 評価のまとめ

(1) 評価内訳

具体目標における主な事業毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 健やかな心と体を育む教育の推進

番号	重点施策	評価
(1)	きらり輝く印西の子ども育成事業の推進	A
(2)	読書活動の推進	A
(3)	食育の推進	A
(4)	健やかな体を育む教育の推進	A
(5)	豊かな心を育む教育の推進	A
(6)	幼児教育の充実	A

2 活力ある学校づくり

(1)	学習指導の充実	A
(2)	きめ細やかな教育支援の推進	A
(3)	国際理解教育の推進	A
(4)	教育の情報化の推進	A
(5)	特別支援教育の推進	A
(6)	学校・幼稚園施設の充実	A

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1)	学校安全の推進	A
(2)	開かれた学校づくりの推進	A
(3)	教育資源の活用	A

II. 生涯学習を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 生涯学習活動の支援

(1)	生涯学習ガイドの発行	A
(2)	市民アカデミーの充実	A
(3)	公民館・地域交流館事業の充実	B
(4)	図書館サービスの充実	B
(5)	視聴覚資料を活用した学習機会の充実	A
(6)	生涯学習まちづくり出前講座の実施	A

2 生涯学習推進体制の充実

(1)	生涯学習環境の整備・充実	A
(2)	産学官民の連携・協力	A
(3)	社会教育関係団体の支援	A

3 青少年の健全育成

(1)	「こども110番の家」の推進	A
(2)	青少年健全育成大会の実施	A
(3)	地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実	A
(4)	成人記念式典の実施	A
(5)	子ども読書活動の推進	A
(6)	家庭教育学級の充実	A

4 スポーツ環境の整備・充実

(1)	スポーツ参加機会の拡充	A
(2)	特色あるスポーツ事業の展開	A
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の充実	A

5 スポーツ推進体制の充実

(1)	スポーツ指導者等の育成	A
(2)	総合型地域スポーツクラブへの支援	C

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 文化・芸術活動の推進

(1)	文化・芸術に触れる機会の拡大	B
(2)	市民の自主的な活動の支援	A

2 文化財の保護・活用

(1)	文化財の保護	A
(2)	文化財の活用	A

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史編さん事業の推進	A
(2)	地域史料の保存と活用	A

※ 評価基準

- S…事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。
- A…事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。
- B…目標が一部達成できなかった。
- C…未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

各施策、主な事業の目標に対しては、進捗、達成度を総合的に判断し、S～Cの4段階の基準において自己評価しました。

今後の方向性としては、PDCAサイクルの一連の検証をもとに事業を進めることが重要であり、印西市教育委員会の機能充実と活性化を図っていきたいと考えております。

(2) 施策別評価

主な施策における主な事業の評価内訳数は以下のとおり

番号	政策	主 な 施策数	主 な 事業数	主な事業の評価数			
				S	A	B	C
I	生きる力を持ち未来を拓く 子どもを育む 〔学校教育〕	3	15	0	15	0	0
II	生涯を通して学びスポーツ に親しめる環境づくりを推 進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕	5	20	0	17	2	1
III	心に豊かさをもたらす文化 の保護と振興を図る〔文化〕	3	6	0	5	1	0
計		11	41	0	37	3	1

(3) 学識経験者の知見の活用

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項には、事務事業の点検及び評価を実施するに当たっては、教育に関し学識経験を有する方の知見の活用を図ることが定められております。

このため、印西市教育委員会では事務事業が適切に実施されているか、学識経験者3名から書面で意見をいただいております。

※敬省略

分 野	氏 名	役 職
学 校 教 育 分 野	柳 橋 幸 雄	元印西市内中学校長
生 涯 学 習 分 野	菅 原 勇	元社会教育指導員 元印西市内小学校長
ス ポ ー ツ 振 興 分 野	菊 地 謙 治	現印西市体育協会会長

(学校教育分野)

「生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む」ために3つの施策を掲げ、15の事業が展開されていますが、それぞれの評価は実績に基づいた具体的で分かりやすいものになっていると思います。

1 健やかな心と体を育む教育の推進

「きらり輝く印西の子ども育成事業の推進」について

学校は、保護者や地域の期待を担い、地域の歴史や環境、特性を生かして教育活動を進めています。そうした学校の取組を積極的に支援することは、保護者や地域の協力体制を一層高め、児童生徒・職員が自信を持って活動を進めることにつながります。市が、全小中学校の特色ある教育活動を全面的に支援し、推進していることは、活力ある学校づくりのために大変有意義なことだと思います。

ものづくり体験学習は、印西市の特色ある教育活動ですが、現代の子どもたちに必要な学習であり、次年度以降も多くの子どもが体験することができるとよいと思います。

小学校の駅伝競走大会も印西市の特色として定着した感がありますが、今後とも児童の参加意欲を高めながら、学校現場の声を生かし、より充実した大会運営をしていただけるよう検討をお願いしたいと思います。

「読書活動の推進」では、図書館司書の配置や学校図書館システムの活用、連絡会や担当者会議などにより、学校図書館の整備と機能が着実に充実してきていると感じます。児童生徒の読書活動を更に高めていくためには、学校図書館司書の増員と配置日数を増やすなど、環境整備に一層の努力をお願いしたいと考えます。

「食育の推進」については、望ましい食生活、衛生、安全など様々な指導を通して健康や体作りの意識を高めるとともに、学校給食を通してよりよい食生活について考えさせています。学校の希望により栄養指導を行っていますが、これからも実態に即して指導が必要な学校への積極的な支援をお願いしたいと思います。しかしながら、食習慣の基本は家庭で身に付くものであり、食育についての保護者への啓発や保護者と連携した指導を今後一層進めてほしいと思います。

「健やかな体を育む教育の推進」では、9つの事業により体力の保持増進と健康管理に向けて充実した取組がなされていると感じます。教科体育や運動部活動では、指導内容の充実と事故防止の観点からも、外部指導者などを積極的に活用し、実態に即した指導を引き続きお願いしたいと考えます。健康管理の面では、健康診断に基づき事後指導や予防的な指導などがきちんと行われています。社会状況の変化により青少年を取り巻く生活環境にも不安な要素が増えているので、薬物乱用防止教育等の一層の推進をお願いしたいと思います。

「豊かな心を育む教育の推進」では、道徳教育の全体計画の見直しを図ったり芸術・文化鑑賞や体験活動を実施したり郷土への意識を高めたりするなど、児童生徒の心に響く多彩な活動がなれていると感じます。また、人権意識を高めるための色々な取組がなされていますが、いじめに関する問題については、学校及び教師が常に高い人権意識を持って、実態把握と適切な指導に努めるよう支援をお願いしたいと思います。

「幼児教育の充実」では、幼児教育に係る情報提供や就学相談、職員研修の推進及び幼稚園・小学校・中学校の連携により成果を上げていますが、今後も職員の指導力の向上を図るとともに関係機関との連携を深め、幼児教育の充実に努めてほしいと思います。

2 活力ある学校作り

活力ある学校作りに向けて6項目の主な事業により、学校現場への積極的な指導と職員の配置、施設設備の整備を行っていますが、評価項目はいずれも具体的であり妥当なものと考えます。

「学習指導の充実」には教師の高い指導力と教育への情熱が不可欠ですが、各種研修会を開催したり校内研修会で積極的に指導を行ったりしていることは、指導力の向上や指導法の改善に大いに寄与しているものと思います。教職員の大量退職の時期にあたり、引き続き市の課題に即した実効性のある研修を計画的に進め、意欲あふれる職員を育成してほしいと思います。市が作成した漢字検定・算数コンテンツ・社会科ワークテストは児童生徒の基礎基本の定着に有効であり、広く活用されることを期待しています。学校支援のためのボランティアや少人数学習指導員等の配置は、児童生徒の学習面や生活面での支援に大いに役立つものであり、今後も一層進めてほしいと考えます。

「きめ細やかな教育支援の推進」では、教育相談体制を整備して児童生徒や保護者の課題解決のための支援を積極的に行い、成果をあげていることがわかります。しかしながら、人間関係の悩みなど様々な理由により学校生活に適應できない事例が増加している現状を考慮すれば、今後とも担当者の専門性を高め、関係機関及び担当者間の連携を更に強め、支援体制を充実させることが求められると思います。

「国際理解教育の推進」では、ALTの全小中学校への派遣により、外国語に慣れ親しむなどの成果を上げており、今後ALTが増員されることで外国語活動が更に活発になることが期待されます。国際理解教育を進めていく上で大切なことは、児童生徒が自国の言語や文化への深い理解や誇りを持ち、他国の言語や文化をも尊重する態度を育てることであり、先生方の国語や日本文化に誇りを持ち、尊重する意識を高めてほしいと考えます。

「教育の情報化の推進」については、印西市の取組は先進的であり、学校間グループウェアや文書管理システム、校務システムは事務の効率を上げ、ICT機器の活用が新たな授業形態を生み出すなど、学校教育環境の整備に大いに役立っています。また、システムの運用や保守管理についても各学校への指導と、個別の対応を適切に行っています。情報化の推進のためには、各学校のICT関連機器の計画的な整備や情報セキュリティ及びシステムの保守管理体制を強化することが必要ですが、教育の情報化という面では、それを進めていくための人材を育成していくことが必要であると考えます。

「特別支援教育の推進」では、各学校の実情に即して介助員や指導員を配置し、一人一人のニーズに合わせた支援体制が整備されていると感じます。今後も関係機関や担当者間の連携を深め、就学相談の早期実施や年間を通じての対応、そして、継続的な相談を実施することで、児童生徒及び保護者の思いや願いに応える教育を進めてほしいと思います。

「学校・幼稚園施設の充実」では、安全安心な施設設備を基本とし、必要な備品の整備、快適な環境作り等が求められますが、計画に沿って大規模改修や空調設備の工事が進められていると思います。地域の開発等により学校を取り巻く条件が大きく変わっていますが、

よりよい教育環境を整備するためには、学校適正配置審議会の答申を尊重し、学校の適正規模や配置、通学区域などについて、保護者や地域住民に十分に説明をし、理解を得ながら進めてほしいと思います。

3 学校・家庭・地域の連携強化

「学校安全の推進」では、全小中校で安全教育の事業が実施され、児童生徒及び教職員の意識を高めていると思います。安全管理の面からもマニュアルの見直しや点検、家庭や地域との協力体制づくりに様々な事業が展開されています。これまでにない自然災害や予期せぬ事件事故から身を守るためには、日々の点検や安全確認の徹底と共に、計画された安全指導や避難訓練等が形式化することなく、各学校や地域の実情に即した内容で、児童生徒の危機対応能力を高める指導となることを期待しております。

「開かれた学校づくりの推進」については、学校や教育センターのホームページにより、広く情報提供が行われています。行事や授業等で学校公開が行われていますが、児童生徒や学校の様子を直接見てもらうことで、保護者や地域の理解が一層進むので、今後も各学校で工夫して進めてほしいと思います。地域人材の活用については、事前の打ち合わせや十分な準備が必要ですが、児童生徒の興味関心を高めたり人と関わる力を伸ばしたりすることにもつながるので、成果を上げている学校の取組を他の学校でも生かしてほしいと思います。

「教育資源の活用」では、自然や地域人材等を活用した自然体験学習が印西市の特色を生かした事業であり、児童生徒の学習機会を拡充することにつながると思います。職場見学や職場体験はキャリア教育推進のために有効な事業だと考えますが、学校の希望する内容や受け入れてくれる事業所の数などがうまく合わずに、事前の連絡や調整などに苦慮している点も多いので、教育委員会の強力な支援が必要かと思えます。

以上、「健やかな心と体を育む教育」を基調とした本市の学校教育は、家庭や地域との連携を図りながら、知・徳・体の調和のとれた事業が推進されていると思います。今回実施された事業評価を精査し、課題解決に向けた方策を練り、きらり輝く印西市の児童生徒の育成に向けた具体的な取組が進められることを期待しています。

(生涯学習分野)

生涯学習は3つの施策が、15の事業から構成され、地域社会や年齢また今日的なニーズに応じて策定されていると考えます。そして、その評価についても具体的な内容になっていて、適切なものと考えます。

II 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

1 生涯学習活動の支援

「生涯学習ガイドの発行」は、年々そのガイド内容や情報量についての専門的な要求が、高まることは確実と考えられます。また、気軽に各種サークル・団体が年間活動の一環として趣味的に利用できる内容を含んでいるため、学習ガイドの存在が広く認知され、その活用が一層図られることを期待します。その意味合いからも、配布やホームページへの掲

載だけでなく、各種の会議等での積極的な広報活動の更なる推進を望みます。

「市民アカデミーの充実」は、年を経過するごとに入学を希望する市民が増えているということですが、これは学習内容が毎年検討・改善され、継続したものと一新したものが、アカデミー参加者の期待に応えるものになっている一つの証になると考えます。募集方法が、数年前から地域の回覧を加えるなどの工夫を凝らし、多くの市民の目に触れる機会が増えたことも要因になっていると考えます。一方でこれからは、二つの検討課題が生じるように思えます。1つ目は、定員についての対応とその検討です。そして二つ目は、アカデミー卒業生の知識と経験をまちづくりに生かす方策の検討です。多くの卒業生は、これまでの人生経験・職場経験から多方面にわたる考え方や方策を身につけています。それを、大いに発揮する場を設けてはどうだろうかと考えます。

「公民館・地域交流館事業の充実」は、6つの館それぞれが創意工夫を凝らした事業を展開していることが、よく理解できます。また、子どもから高齢者まで、様々なニーズに応じて多くの期待に応えていると考えます。

公民館や地域交流館は、市全体の方針に基づきながら、地域の特性を十分に考慮したプログラムを作成して、その実践に取り組んでいることがわかります。しかし、子ども・青少年対象の事業では、中学校の部活またはスポーツ団体や芸術サークルが休日を利用して活動しているため、公民館事業に参加したくても不可能になっていることがあります。そのことが、施策評価Bの要因ともなっていると考えます。また、公民館職員の少なさも事業を制約している原因になっているのではないのでしょうか。

「図書館サービスの充実」は、今後ますます高齢者が増え、また生涯学習の重要性が増すなかで、サービス要求の高まる内容と考えます。6館の取り組みについて、共通する分野・独自性のある分野の共有化を一層図って広報活動することで、個人が多く館の利用の利便性を更に感じるようになるだろうと思います。

「視聴覚資料を活用した学習機会の充実」は、今後の課題に貸出しについて「視聴覚ライブラリーのあり方を含めた検討が必要」とある。個人や団体に保有する機材・資料が増加傾向にある中、検討に値するものと考えます。

ただ、これまでに蓄積してきた多くの資料は、たいへん貴重でかけがえのないものであることを基本に置いた検討の場としていただきたいと考えます。

「生涯学習まちづくり出前講座の実施」は、認知度の高まりとともに、利用・活用が大きく伸びているようです。今後は、自治会・町内会また各種団体間のコミュニケーションの広がり的一端となることに期待します。また、庁内における関係課・機関のより積極的な関わりを期待します。

2 生涯学習推進体制の充実

「2. 生涯学習環境の整備・充実」は、①施設の維持・改修、②機能の充実、③社会教育指導員の配置から構成されている。②では、共催事業や季節に応じた事業の取り組みがなされ、創意工夫のあとが見られます。

「産学官民の連携・協力」は、市内にある大学の教育機関や市民団体等との連携が更に充実していると感じます。それぞれが、双方向の目的を持ち、互いに有効な事業を展開することで、学習内容の進化・深まりとなり、学習機会の拡大が期待されます。また、これ

まで以上の連携・協力を模索しながら、更なる充実が期待できる分野であろうと考えます。それは、市内に進出する企業の拡大や各種団体の新規の設立が見込まれるからです。

「社会教育関係団体の支援」は、団体活動を側面から支援するという観点から重要な施策だと考えます。生涯学習は幅が広く、内容も多岐にわたりますので、全てを市の主催とすることには困難さがあります。“自分たちでできることは自分たちで”を基本にして、有用な活動を継続する団体への補助や相談を続けて欲しいと考えます。

3 青少年の健全育成

『子ども110番の家』の推進は、運営委員会の開催の場で取り組みの主旨の再確認をしているようです。委員の交代や入れ替わりがある中で、一貫した推進の継続という視点からは重要なことと考えます。ただ、市内をめぐる、協力家庭や事業所について再確認があるのではと思われる「家」がありますので、各地区での点検作業が必要と思います。

「青少年健全育成大会の実施」は、各種の表彰を含み、実践を行った方や応募をした方の今後の励みとなっていると思います。ただ、今後の課題ともなっているように、内容の検討が必要と考えます。参加者の固定を払拭し、参加者が他の市民に育成大会の良さをアピールできるような新しい企画運営を期待します。例えば、日常の実践についての個人発表や団体での取り組みの情報交換・意見交換などはどうでしょうか。

「地域ぐるみさわやかコミュニティ推進事業の充実」は、各地域コミュニティの1つとしても有効だと考えます。町内会・自治会・地域活動団体、そして小中学校を中心とした小さな取り組みから出発した活動は、継続することで、地域での存在感を増していると確信します。そして、何よりも出発時の児童生徒が現在成人した今、これまでの地域での取り組みに直接参加したり、地域の方々の活動に活かされると考えます。

「成人記念式典の実施」は、2回の運営スタッフ会議しかないにも関わらず、実り多い式典実施となっていると聞きます。式典参加者も多く、それは新成人の方々が楽しみにしている証となるでしょう。今後は、中学校とも連携・協力をして、卒業の前の段階から運営委員の選出や応募があることの事前の通知を行ってはどうでしょうか。そうすることで、当日の企画運営が同級生の力で行われていると理解し、一部の心ない迷惑行動に自己規制がかかると考えます。

「子ども読書活動の推進」は、学校教育との連携・協力がますます重要になると考えます。図書館でのお話会にも多くの子どもたちが参加していることでもわかるように、機会があれば喜んで参加するのです。ただ、そんな場を設けるには、図書館だけでは限界があると考えます。一方、学校のみでも限界があります。

「家庭教育学級の充実」は、どんな時代でも重要な分野です。計51学級での家庭教育学級の実施は、多少の内容の吟味が必要であっても、今後の学級生の活動の原点になると考えます。これまでの経験の中で、初年度の活動に意義を見出した学級生が、それ以降も任意に家庭教育学級を継続した例を知っています。また、学級生による横のつながりだけでなく、異学年を含めて縦のつながりを実践した学年も多くありました。縦横の結びつきを可能にすることも家庭教育学級であると考えます。

Ⅲ 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る

1 文化・芸術活動の推進

「文化・芸術に触れる機会の拡大」は、文化ホール主催事業が中心となっています。主催の有料公演の目的達成率が少ないと評価されていますが、達成率のみで機会の拡大を評価してはいけなからと考へます。それは、ホールそのものの存在が、各種市内団体や貸館を利用した企業等の有益な活動の場と捉えるからです。仮に、文化ホールが存在しなかったらと考へるとわかりやすいと思へます。

「市民の自主的な活動の支援」は、その事業内容や実績からも十分な施策であったことが伺へます。いろいろなサークルや協会・団体が生き生きと常時活動をし、また発表や展示を通じて相互のコミュニティを図れたことと考へます。更に、企画提案型の事業も確実に定着し、その情報も貴重な文化・芸術の推進役を果たしてはいます。

2 文化財の保護・活用

「文化財の保護」と「文化財の活用」は、今後も着々と開発の進む印西地域においては、ますます重要性が高まっています。その意味からも指定文化財の保護事業、基礎調査事業、埋蔵文化財の保護事業などは今後も継続して行ふ必要があると考へます。また、新しい「木下交流の杜歴史資料センター」の活用と合わせて、古くからある「印旛歴史民俗資料館」の活用をより一層図ることで、目に見える形から保護意識の向上にもつながると思へます。印旛の資料館を初めて見学した年配の方が、その貴重さに驚き、後日家族を同伴して再度訪れたということもありました。

3 市史編さん事業の推進

「市史編さん事業の推進」と「地域資料の保存と活用」は、着実な実践を重ねたうえでの評価だと考へます。中でも市史研究誌や歴史ガイドブックの刊行は、古い印西を多くの市民に知っていただき、“印西に住んで良かった・印西を自慢できる”と強く意識できる事業の1つであると思へます。「木下交流の杜歴史資料センター」との連携を強化するうえでも、更にセンターからの景観をアピールしながら、子どもから大人までが市史や地域に興味関心を示す取り組みが期待されます。

(スポーツ振興分野)

まず、「4 スポーツ環境の整備・充実」においては、様々な教室を開催し、体力の向上や健康の保持・増進は基より、スポーツに親しむ機会の拡大を図るための取り組みが伺へます。教室の種目や内容も、可能な限りフィードバックし、多岐にわたるであろう、市民ニーズに応えた、魅力ある教室の開催を期待いたします。

また昨年度は、全国規模の大会として、東京オリンピックの追加種目でもあるクライミングの日本選手権兼ユース選手権大会を開催しておりますが、オリンピックへの機運を市としても高めるために、他の種目も含め、誘致を行っていただきたいと考へております。スポーツを「観る」ことで、実際に競技を行っている方だけでなく、初心者の方や若年層の方のスポーツ及び競技種目への理解・関心も高まり、更に感動を分かち合うことでスポーツ人口の底辺の拡大にもつながり、市の活性化にもつながるものとして考へております。

次にハード面では、各施設（特にテニスコート）の老朽化が見受けられること、松山下公園においては、イベントの規模や大会等が重複することで、駐車場が不足するケースが見受けられること、ふれあいバスの本数が少ないことの3点において、市民の方々より意見を聞くことがあります。計画的な施設改修及び、駐車場や交通インフラの整備等の対応について検討をお願いし、順調に推移している施設利用の更なる拡大のために、スポーツ環境の整備の充実を期待いたします。

そして、「5 スポーツ推進体制の充実」においては、トップレベルのアスリートとの交流機会の提供として教室の実績があるが、こちらに関しては、トップレベルの選手から学べることは多々あると思いますので、是非とも継続して行っていただきたいと思います。印西から世界へ羽ばたく選手を育成するためにも、環境整備は重要な部分となりますので、積極的にそのような機会は作り出し、提供するべきだと考えております。また、総合型地域スポーツクラブの新規設立については、地域の特性や実情を十分に把握し進める必要があります。ここ数年の分析等を踏まえ、場合によって見直しの検討も必要と考えます。

最後にスポーツは、単に健康や体力づくりを図るだけでなく、コミュニティ形成、青少年の健全育成等にも大きく関わっていくことから、今後も様々な手法や仕組みを検討され、市のスポーツ振興となる事業展開を期待いたします。